

## 回復期心臓リハビリテーション患者におけるフレイル診断指標と血管機能検査との検討

演者 星野 祐理子 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

横山 美帆 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック)

島田 和典 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック)

高橋 秀平 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

塩澤 知之 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

相川 達郎 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

國本 充洋 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

深尾 宏祐 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学)

山田 みき (順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック)

本澤 晶雄 (順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック)

代田 浩之 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック)

【背景】フレイルは、動脈硬化や心血管病の発症や進展に関連すると報告されている。

【目的】本研究は、回復期心臓リハビリテーション (CR) 患者におけるフレイル指標を含めた患者背景と血管機能評価との関連性を検討することを目的とした。

【方法】2015年11月から2016年1月に当院CRに参加した163名(平均年齢68歳)を対象とした。CR開始時に基本チェックリストによるうつに関する項目を除いた20項目中5点以上であったものをフレイルと定義し、フレイル群(F群:68名)と非フレイル群(NF群:95名)に分割した。医用電子血圧計AVE-1500を用いて、CR開始時のarterial velocity pulse index (AVI) とarterial pressure volume index (API) を測定し比較検討した。

【結果】AVIは、ヘモグロビン値、握力と有意な負の相関、BNP値と有意な正相関を認めた。APIは、基本チェックリスト項目、体脂肪率、収縮期血圧、血清クレアチニン値と有意な正相関、HDL-C値と有意な負の相関を認めた。APIはF群ではNF群に比べて有意に高値であった。

【結論】CR施行患者におけるAVIおよびAPIは種々のリスク因子と関連し、特にAPIはフレイルと関連する可能性が示唆された。